

【第2回】

日時:令和3年3月23日(火)19:00~20:00

内容:伝えたい事の共有について

要旨:興味の有無に関わらず、恒常的に目に触れるものが必要

見る人(市民)と見せる人(市)がお互い「得る」ように

○見た人(市民):

認知症は特別なことではなく、認知症の人は身の回りに普通に生活している、ということがわかる。(知識を得る・偏見をなくす)

○見せる人(市):

認知症を自分事として捉える人が増え、支え合い・助け合いが生まれ、率先して動く人が多くなる。(支える人を得る)

「認知症の人って実は近くにいるんだよ」と身近に感じてほしい

○諫早市で起きた事例を通じ「ありがとう」「よかった」という好関係を伝える。

○実際にトラブルが起きた内容・場所を使う。

○諫早市の見慣れた風景を舞台にしたい。

○諫早でしか作れないものを作る。(例:諫早市の取り組み)

興味の有無にかかわらず、恒常的に誰の目にも触れるようにしたい

○ドキュメンタリー(誰もが引き込まれていくように高度なテクニックが必要)

○4コマ漫画(市報に継続的に掲載)

○本の作製

○HP(包括ケアシステム等)

○常に人の目に触れるもの(短編のもの)

効果がわかるもの・評価できるものがないのではないか

○映像では効果が見えにくいところがある。

(例えば、本だったら出版数などでわかるが…)